

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103726		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム 新港		
所在地	〒851-2211 長崎県長崎市京泊3丁目30番3号 (電 話) 095-850-6866		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月13日	評価確定日	平成21年2月2日

【情報提供票より】(H20 年 10 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 21 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	5 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(10 月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	12 名	要介護4	8 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	長崎新港診療所・こңどう整形外科・山崎齒科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎市の郊外で、新しい住宅地と古くからの地元住民が住まれている地域に設立されている。先に開設されていた法人内のグループホームに加え、入院患者のニーズに沿って母体診療所に併設で開設された当グループホームは3ユニットとも病棟と廊下で繋がっており、5階にはデイケア施設がある。入居者は医療施設が密着している部分と、利用していたデイケアから入居に至る方もいるが、顔なじみの職員やデイケア利用者がおられることが、入居者と家族にとっては安心できるホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された11項目は改善計画シートを作成されて、取り組みをされている。まだ改善へ向けて継続中の取り組みが多いが、積極的な姿勢がうかがえる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は職員全員で取り組み、各ユニットの主任(計画作成担当者)と管理者がまとめられた。職員にとって日々の介護の見直しの機会であることを意識されている。外部評価の結果は積極的に取り組まれている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	3ヶ月に1回運営推進会議を開催されている。家族代表兼自治会長と地域包括支援センター職員、法人代表などが参加されている。内容は行事計画の報告や、家族アンケートの結果を職員や施設運営に対しどのように活かしていくかを検討されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月「たより」を家族宛に送付され、変化がある時や病院受診の結果を電話や面会時に報告されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	新興住宅地と古くからの住民が住まれている地域に設立されており、地区自治会長が家族代表を兼ねておられる。地域行事や小学校、自治会の運動会などに入居者と共に参加されている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の見直しのため、職員の意見を管理者が集約され【安心したその人らしい暮らしを、真心でお手伝い】を3ユニット共通の理念として掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回開催しているミーティング時に職員全員で理念を唱和して、浸透を図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地と古くからの住民が住まれている地域に設立されており、地区自治会長が家族代表を兼ねておられる。地域行事や小学校、自治会の運動会などに入居者と共に参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニット職員全員で取組みられ、各ユニットの主任(計画作成担当者)と管理者がまとめられた。職員にとって日々の介護の見直しの機会であることを意識されている。外部評価の結果は積極的に取組みられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、運営推進会議を開催されている。家族代表兼自治会長と地域包括支援センター職員、法人代表などが参加されている。内容は行事計画の報告や家族アンケートの結果を職員や施設運営に対しどのように活かしていくかを検討されている。		

グループホーム 新港

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは書類の提出などで行き来する程度だが、必要な事柄が生じた場合は、窓口へ赴くなど努力されている。電話でも困りごと相談などしていく意向を示されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「たより」を家族宛に送付され、変化がある時や病院受診の結果などを電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族に無記名でアンケート調査を行われた。その結果は職員全員が目を通し、運営に反映するような取り組みの方針がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が続いたことを契機に、マンネリ化を防ぎ職員から新しい意識が活発に生まれるよう、昨年4月より3ユニット間の職員異動を取り入れた。異動人事は最小限に抑えて、入居者への影響には十分に配慮している。管理者がミーティングにおいて入居者の紹介を行うなど情報共有に努め、現在は職員間での協力体制ができつつある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら職員のレベルアップが必要と、管理者は自覚されているが、なかなか職員が研修に参加できていないのが現状である。	○	現在、職員不足等の問題が挙がっているが「自分がされて嫌だと思うことを入居者にしない」という介護計画を毎日意識付けながら日々の記録を見直していくことから、更に認知症の理解を深められていくことに待たい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在グループホーム連絡協議会の地区支部役員を当法人管理職が務めており、地域の同業者との交流を積極的に行う意向を示されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず職員が面談を繰り返し、家族の意向や希望を把握してサービス利用を開始されている。同じ建物内の診療所やデイケア利用の方が入居されることが多く、ホーム見学や職員と顔馴染みの関係から、スムーズな入居に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に寄り添う介護に職員の時間が取れない現状がある。その中でも趣味や昔の話から、「梅干の作り方」など体験で覚えていることを教えてもらいながら一緒に作るなど支えあう関係を大切にされている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居は病院や施設から直接入居となるケースが多く、家族や関係者からの情報と異なることもあり、本人や家族からの情報を詳しく聞き取ることに重点を置かれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	身体介護中心のケアプラン作成に偏っていることは否めない。ケアプランと日々の介護記録が見直されても変化が見られないのが現状で、記録様式の見直しなどが必要と思われる。	○	認知症介護とは身体面、精神面の双方からなるものであり、その人らしく暮らし続けるためには本人本位の介護計画作成のプロセスが大切である。そのために、日々の介護の中での気づきを介護計画に反映されることを期待したい。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、定期的な見直しを行われており、入居者の変化に応じて家族と話し合い随時見直し、変更がされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設診療所以外の病院受診の同行や、併設のデイケア利用など支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所との連携で受診支援をされている。遠方以外の入居以前からのかかりつけ医師との連携や受診の際の同行などされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同じ建物に診療所が併設されており、医療連携加算もとられて、24時間医師や看護師と連絡が取れるような体制ができているため、家族や入居者の安心に繋がっている。重度化への説明は入居時にされている。現在書類の整備に取り組まれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症が進んで意思の疎通が困難な入居者もおられるが、人としての尊厳を大切にするように職員同士で注意し合うような、職員間のコミュニケーションが大切であることは自覚されており、馴れ合いにならないように努められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務が優先とならないように心掛けているが、身体介護が優先となっているのは否めない。各ユニットの主任や管理者はその点を自覚されており、検討段階のため今後の展開が期待される。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は同じ建物内のデイケアを含め全て外注されている。食事時は同じテーブルで一緒に食べ、後片付けも一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前中を入浴時間とされているが、希望に応じ午後からでも入浴できるように準備されている。入浴拒否がある入居者には最低2～3日に1回入浴できるように支援をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力に合わせて、洗った食器やお盆を拭く担当やテーブル拭き、洗濯物たたみなど率先してされている。1日1回のおやつ作りは動ける入居者は楽しみにされている。要望に合わせて買い物や季節に応じたドライブなど気晴らしの支援をされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日は困難だが、天気が良いときは散歩程度の外出や外気に当たるだけでも外に出る支援をされている。月1回は買い物などで歩行できる入居者を連れて車で出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3ユニット中で2ユニットは、階段やエレベーターを利用するまでに転倒などの危険防止や職員の見守りに限界があるため昼間の施錠が必要である。居室の施錠はされていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は消防署指導の下に避難誘導訓練や消火器の扱い方指導など受けている。1回は各ユニット合同で出火場所や時間帯を変えて訓練をされている。自然災害については特にライフラインの確保など想定されていない。備蓄に関しての意識を持つことで自然災害を想定した対策が期待される。		

グループホーム 新港

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は外注されており、各階にエレベーターで運ばれている。食事摂取量や水分量をチェックをされている。栄養バランスや個人に合わせたソフト食、刻みなども厨房にて行われるが、当日の体調に合わせて更に手を加えた食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	同じ建物内に診療所が併設し、玄関は分かりにくいですが、各ユニットの入り口はそれぞれ花を置いたり、飾り付けに工夫をされている。ユニットの基本的な構造は同じだが、テーブルの配置やソファの位置など入居者が居心地良く過ごす配置をされている。季節を感じられる花や置物も各ユニットで変化を付けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活の延長線上として、使い慣れた身の回り品や、独居だった方は電話を設置されており、友人との会話を楽しまれている。入居者の個性がそれぞれ活かされた居室の工夫が見られる。		